

## 日本臨床外科学会 国内外科研修報告

### がん研有明病院での国内外科研修を終えて

姫路赤十字病院外科

西江 尚貴

この度、平成30年度日本臨床外科学会の国内外科研修プログラムにより11月1日～30日までの1カ月間、がん研究会有明病院で研修をさせていただきましたのでご報告申し上げます。私自身は今回のプログラムへの応募時点で卒後7年目であり、申請条件の一つである外科専門医の取得から日が浅いこともあったため大変恐縮ではありましたが、25施設の中から国内でも有数のhigh volume centerであるがん研有明病院を選択致しました。

研修期間中は主に胃外科グループで手術見学や各種カンファレンスに参加させていただきました。郭清にこだわった手術手技に感銘を受けたのはもちろんのことですが、非常に印象的であったのはカンファレンスの質の高さでした。がん研病院の消化器外科では毎週火・木曜日の朝8時から上部・下部消化管、肝胆膵を含む消化器手術の術前・術後症例、さらに術式変更症例などを全例検討する消化器外科カンファレンスが行われており、担当医が各症例をPower Pointでまとめたスライドを提示する形式がとられていました。約1時間超のカンファレンス中に提示される症例数は術前のもだけでも30例を超えているため、要点を的確に押さえた簡潔なプレゼンテーションが要求されます。また、スタッフの先生からは時に治療法や術式について厳しい質問をされる機会も見られましたが、レジデントの先生方は事前に文献などを調べた上で堂々と自分の意見を述べており、一つ一つの症例に対して非常に熱心に取り組んでおられる印象を受けました。ともすればただただとしたカンファレンスになってしまうこともありますが、このような議論を行うためには入念な準備が必要であり、それによりスムーズな議論ができれば自分の知識構築につながるものと思われました。

胃外科グループには研修時9名のレジデントの先生が在籍しておられ、それぞれの先生方が忙しい臨床業務の中で同時にリサーチを行っており、非常に高い意識を持って修練を積み重ねていました。そのような志の高い同世代の先生方と多くのお話できたことも今回の研修での大きな財産になったと実感しています。また、がん研病院には海外からも多数の見学者が来ており、たどたどしいながらも英語での医療会話はとても楽しく勉強になりました。ベトナム人留学生のfarewell partyにも呼んでいただき、このような面でも普段であれば体験できないような国際交流ができたことが新鮮に感じられました。

1カ月という短期間ではありましたが非常に充実した日々を過ごすことができたとともに、この研修を通して自身の臨床や研究に対する姿勢も大きく変化したように思います。今回の貴重な経験を活かし、外科医としての今後のレベルアップにつなげていくことができると考えております。最後になりますが、このような素晴らしい機会を与您いただきました日本臨床外科学会の跡見裕会長、国内外科研修委員会・高山忠利委員長をはじめとした関係者の方々、研修をご承諾くださいましたがん研有明病院の山口俊晴名誉院長、佐野武病院長、比企直樹胃外科部長ならびにスタッフ・レジデントの先生方にはこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

